

## 教養教育における大学図書館の利用

村田 龍太郎

教養教育は 1991 年の大学設置基準の大綱化によって、多くの大学の教養部が廃止になるなどの転換点を迎えた。しかし、教養教育自体の重要性は文科省などからも提唱されており、教養を備えた人材が必要となっている。これを満たすことに関して、大学図書館の役割が挙げられる。大学図書館の役割として適切なコレクションに学生が触れることは重要であり、本研究では教養に関する図書のリストを作成し、それを学生が借りているか、貸出分析を行うことによって、教養を身に付ける上で大学図書館が果たしている役割を明らかにすることを目的とする。

本研究では国立 7 大学のインターネット上に公開されている 2016 年度シラバスを分析し、教養教育に関する科目の教科書・参考書 5708 件を収集した。収集した量が膨大であったため、収集した教科書・参考書のリストの中から、3 大学以上が挙げた図書 41 タイトルに絞ったリストを作成し、そのリストを用いて筑波大学附属図書館の貸出履歴を分析した。貸出履歴の分析は 2013 年度から 2015 年度の図書リストの貸出 1347 件に関して、貸出履歴、利用者番号、所属記述、資料番号、資料名、著者名、貸出区分、所在コード、請求記号、貸出年月日、貸出館の項目を利用して分析した。分析する際に、仮説 1「多岐にわたる分野の図書が貸出される」、仮説 2「専攻分野の周辺分野の図書も多く借りる」という仮説を立てた。

結果、収集したリスト 41 タイトルは NDC 一次区分が 8、4、3、2 の 4 つのみが集まった。その中でも 4 類のタイトルが 31 タイトルあり、リスト全体の 76%を占めていた。貸出分析をした際には、対象となった全貸出 1347 件のうち 1347 件が 4 類のタイトルの貸出で全体の貸出の 97%に上った。リストのタイトル数・貸出数ともに大幅に偏っており、多岐にわたる分野の図書が貸出されるとする仮説 1 は検証できなかった。また、4 類の図書の貸出に対し、二次区分にまで広げて自然科学系の学類の貸出と照らし合わせ、専攻の周辺分野の図書の貸出について調べた。結果、自然科学系の学類はそれぞれの専攻の分野の図書を借りているがそれ以外の分野の図書の貸出量は少なかったがそもそも資料の偏りがあるため、専攻分野の周辺分野の図書も多く借りるという仮説 2 も検証できなかった。教養科目の図書リストの図書に関しては幅広い図書の貸出は行われないと考えられる。

(指導教員 逸村裕)